

製品名: LUCA15 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13486**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000 |
| 分子量 | 92kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | RBM5 |
| 別名 | RBM5; H37; LUCA15; RNA-binding protein 5; Protein G15; Putative tumor suppressor LUCA15; RNA-binding motif protein 5; Renal carcinoma antigen NY-REN-9 |
| 遺伝子 ID | 10181.0 |
| SwissProt ID | P52756 |
| 免疫原 | 抗血清はヒト RBM5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 226-275 |

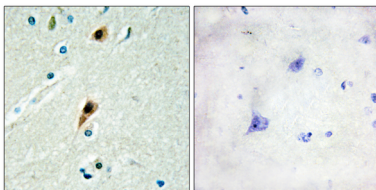
背景

この遺伝子は、スプライソソーム A 複合体の構成要素である核 RNA 結合タンパク質をコードする候補腫瘍抑制遺伝子です。コードさ

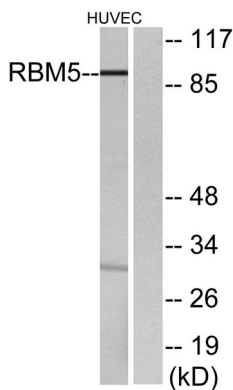
れているタンパク質は、腫瘍抑制タンパク質 p53 を含む複数の標的遺伝子の pre-mRNA スプライシングを介して、細胞周期停止およびアポトーシスの誘導に役割を果たします。この遺伝子は腫瘍抑制領域 3p21.3 内に位置し、肺がんを含むいくつかの悪性腫瘍の腫瘍形質転換および進行の抑制に役割を果たす可能性があります。[RefSeq 提供、2011 年 10 月]、機能: スプライソソーム A 複合体の構成要素。多数の mRNA の選択的スプライシングを制御します。イントロンの 5'および 3'スプライス部位に U1 および U2 snRNP がリクルートされた後、スプライス部位の対合を調整する可能性があります。FAS や CASP2/カスパーゼ 2 など、アポトーシスに關与する複数の遺伝子の選択的スプライシングを制御することで、アポトーシスを正にも負にも制御する可能性がある。FAS の場合、エクソン 6 の排除を促進し、アポトーシスを阻害する可溶性 FAS を生成する。CASP2/カスパーゼ-2 の場合、エクソン 9 の排除を促進し、それによってアポトーシスを誘導する CASP2/カスパーゼ-2 の触媒活性型を生成します。配列注意:CDS の選択が間違っています。類似性:RBM5/RBM10 ファミリーに属します。類似性:C2H2 型ジンクフィンガーを 1 つ含みます。類似性:G パッチドメインを 1 つ含みます。類似性:RanBP2 型ジンクフィンガーを 1 つ含みます。類似性:RRM (RNA 認識モチーフ) ドメインを 2 つ含みます。サブユニット:スプライソソーム A 複合体 (プレスプライソソームとも呼ばれる) の構成要素です。スプライソソーム B 複合体 (プレ触媒スプライソソームとも呼ばれる) の形成時にスプライソソームから解離すると思われる。この複合体には、ヘテロ三量体の U4/U6.U5 snRNP が結合しています。U2AF2 と相互作用します。この相互作用は直接的です。また、ACIN1、PRPF8、SFRS3、SNRPB、SNRPN、SNRPN70、SNRPN200 とも相互作用します。これらの相互作用は間接的である可能性があります。組織特異性: アイソフォーム 5 は正常組織に広く発現しており、T 細胞白血病細胞株では高レベルで発現しています。

研究分野

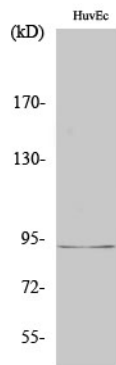
画像データ



RBM5 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



RBM5 抗体を用いた HUVEC 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



LUCA15 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウエスタンブロット分析。